

旧町村農場改修ワークショップ

第2回開催結果（概要）

日 時：令和4年7月28日（木）14：00～16：00

会 場：旧町村農場 研修室

参加者：関係団体3名、市民団体1名、地元住民3名、市民公募2名 合計9名

1. 開会

2. 前回のふりかえり

今回は、まず施設管理担当者より施設概要の説明があり、参加者全員で施設見学を行った。その後、事務局より事業の概要（目的、スケジュール、施設の状況）について説明を行い、ワークショップ参加者から意見、感想等をうかがった。意見、感想は、「施設を説明する語り部の存在が重要」、「市民や子どもたちに愛着のある存在であってほしい」、「デジタルを活用した改修を希望したい」、「対外的なアピール不足を感じる」、いまの姿を残していくべきだ」等、様々な視点から発言があった。そして最後に、追加意見や要望、印象に残ったこと等をアンケートに記入いただいた。

3. 事例紹介

全国各地にある文化施設等のリニューアル事例を紹介した。紹介した事例は以下の通り。

札幌市水道記念館、池田町ブドウ・ブドウ酒研究所（いけだワイン城）、蝦夷文化考古館・千住生活館、旧第五十九銀行本店本館、関門海峡ミュージアム、豊島区立昭和歴史文化記念館、千葉市美術館

その他、デジタル技術の活用事例として、ずかんミュージアム、軍艦島デジタルミュージアムの紹介も行った。

リニューアルの経緯には、参加・体験しながら楽しく学ぶ施設、町民が集う施設への回帰、文化交流発信施設、老朽化した設備改修、施設の魅力向上、地域全体の回遊性を高め古き良き昭和の歴史・文化を次世代に継承する、文化面で都心からの集客を図る、デジタル技術で創造力を高める工夫等、様々な視点で実施されていることを紹介した。

4. 意見交換

（参加者）

●多くの人を呼び込む必然性はないのではないか。従来型の観光施設ではなく、市民に愛される、地域の方々に必要とされる場所にしていくのがいいと思う。第一のターゲットは市民。自然に恵まれた市民の癒しの場、聖地のような心の拠り所として存在する、そういう歴史の重みを感じる場所になっていくことだと思う。

—— 地元住民の立場からすると、あまり賑やかになってもらいたくないというのは本音。緑をいかした施設として。冬は閉鎖ということ、教育委員会の管理ということから営利施設ではないという位置づけでいいと思う。どちらかというと公園的な機能、建物

- は歴史的なものを継承し、コンサートとか展示会という利用方法がいい。(参加者)
- 市民対象については反対する。海外を含めて発信すべき。札幌圏中心に広く道外、海外へ、北海道の原風景の象徴としてアピールしたい。(参加者)

(参加者)

- 地域の子どもたちの社会見学の施設として整備してほしい。酪農とはこういうものだとか教えられる施設にしてほしい。
- 現在も社会見学として利用されている。岩見沢の農業高校は毎年来館している。滞在時間は1時間程度。説明は観光ボランティアに来てもらって行っている。(指定管理者)
- 大学内に農場施設があるので学内で見学している。ただ江別の酪農に関しては触れていない。道外出身者が多い大学なので、地域に関する知識はなく、旧町村農場に対する認知度は低い。(参加者)

(参加者)

- 酪農の体験ができる教育施設として、展示物も視点を変えてアレンジができれば再訪意識も高まるのではないかな。
- バター作り体験とか「さとらんど」的なフレームがあってもいいかな。近くで体験できるメリットもある。あとは、風景を活かした写生会など。(参加者)
- 教育的な視点では、子どもが目を引くような工夫があったらいい。現状大人向けの印象があるが、見せ方には北海道博物館のような発想も欲しい。(参加者)

(参加者)

- 豊かな緑を自由に利用できる憩いの場として使えるのがいい。展示に関しては、大人向けのイメージがある。スライドショーのような展開や、子どもにも見やすい展示方法の工夫も考えられる。江別市以外の方には、サイクリング等で利用する人向けに駐輪スペースの設置やサイクルMAPの作成で、観光での利用促進が考えられる。
- 「えべくる」というレンタサイクル事業が今年から本格的にスタートしている。観光客向けのレンタサイクルで、場所やお薦めコースを網羅したMAP作りを行っている。(参加者)
- 札幌では認知度が低いのが現状だと思う。「ここに行けば」というものがない限り難しいかなと思う。素晴らしさを展示しているから見に来てと言っても、歴史上の人物ではないのでちょっと弱いのではと思う。「そこにあるから行く」というアピール力のあるものがあれば。(参加者)

(参加者)

- 「知らされていない」。知ってもらうことから始めないといけないと思う。そのための手段としては、イベントを定期的にやることか。かつてJRと連携してウォーキングイベントがあった。地域内にある施設を結んだ企画を定期的にも実施するなど、知らせる機会を増やすことが大事ではないか。子ども向けにも、いつでもいらっしやいという形は難しいと思う。乳製品体験を定期的にイベントとして行うほうがいいのではないかな。「何を知ってもらうか」を考えると、

歴史よりも屋外の緑、公園としての機能がいいと感じる。展示については、屋外（牛舎）も活用して展開するとか、施設をアピールできる内容はどうか。

- 各地域で夏祭りや商店街で催しもの実績もあるが、地域住民の理解を得なければならない難しさもある。このスペースは駐車スペースが狭すぎるのでイベントで人を呼ぶのは難しいのではないか。（参加者）
- コロナ前までは乳製品体験は定期的にやっていた。企業とタイアップしいずれも無料で行っていた。（指定管理者）
- 外から人を呼ぶことは必要だと思う。冬なども、風景もいいし、雪の上で遊ぶことは外国人にもアピールできると思う。現在の町村農場と組み合わせる観光コース化することもいい。（参加者）

（参加者）

●様々な考えがあるが、まずは地元の人を対象に考えるべきだと思う。現状の施設のイメージは、展示などにも変化がないなど市民はワクワクしないのではないか。映像などを駆使することで子どもたちにも楽しい体験が提供できると思う。食を絡めた部分では、イートインスペースを作るなどの変化もあるといい。子ども連れの若いお母さん世代はSNSを駆使して情報交換するので、いいイメージを拡散してもらえる機会をうまく活かしていくことができる。屋内には陶芸作家などの個展スペースに利用する、夜間はプロジェクションマッピングのような企画を取り入れるなど、あくまでも市民メインで、その盛り上がり浸透して市外からの観光に広がっていくイメージで考えたい。

（参加者）

●小学生にアピールすることを考えると、小学校の給食で町村農場の瓶牛乳を飲めるのは、かなり数が少ないと思っている。6年間で4年生の時に一度だけと記憶している。もう少し目にする回数を増やすことで、江別で育った子どもたちの記憶に残るので、そういう側面も大事にしてほしい。うるさくなるのは嫌だが、市民に開かれた場所であってほしい。うまくアピールする方法があるのではないかと考えているが、今の施設の状態のままでは厳しい。ワクワクする施設としてリニューアルしてほしい。

- 近隣の施設、たとえば四季のみちや蔦屋書店などと連携したイベントなどが考えられる。（参加者）
- 農具など酪農で使っていたものを展示するのはどうか。昔の人の苦勞を知る、ありがたみを実感できるのではないか。昔の搾乳方法などもある。（参加者）
- 最新の技術との比較があると面白いと思う。（参加者）

（参加者）

●屋内の使い方にも工夫がほしい。自由に出入りできるスペースを作るとか。また、展示物の牛に搾乳器具をつけて搾乳体験をすることも考えられる。

（参加者）

●部屋の利用について考えている。「何度も訪れたい場所」という視点から、他にはない

希少価値のあるものでなければ大規模に改修する意味はないと考える。市民をバックアップして江別の発展につながる拠点になる提案として、起業を考えている人に安価な利用料でお試し営業ができる場所としての活用を考えた。飲食店や小売店、ヨガ教室、陶芸教室、ネイルサロン、ジャズダンス、ライブ、お笑いのイベント、その他市が各種コミュニケーション講座や婚活パーティーを主催することなど。「町村に行けばいろいろな体験ができる」ことで「何度でも訪れたいくなる」ことにつながる。お試し営業から実際に起業する人がいれば、そこからの波及効果も期待できる。

—— 市内にチャレンジする施設はあるがIT分野に限っている。飲食や他分野への展開はこれまでなかった。（参加者）

最後に、今回が大きな改修のタイミングととらえて、新しく作ってみたい機能や考え方について、一言ずつうかがった。

（参加者）

- 子どもたちが身近に滞留できる場所。思い出に残る場所。
- 民泊。緑と学校と住宅に囲まれた独特な雰囲気を楽しめる場所。
- ワクワクする、デジタルを活用して親子で楽しめるミュージアムのような空間。
- 生き物を感じる場所。フラットきてゆっくりできる場所。
- 倉庫化している牛舎を、デジタルを活かした展開に。
本館はギャラリー等の貸スペースの利用。
- 外観を変えずに、ゆっくり過ごせる場所。
- 乳製品に限らず、パン、野菜等、イートインスペースを含めた地元を楽しむ場所。
- 展示の工夫。酪農の今昔がわかるもの、映像を活用した動きのある企画。英語表記も。
- 外観はそのままに、屋内は変化のあるリニューアルを。

改修の設計を担当する北海道建築設計監理(株)から一言いただいた。

（要旨）

建物の特徴である牛舎のL型形状、洋風建築等についても展示に加えて発信することも考えている。また、映像・ナレーションを導入し、町村氏が抱いてきた酪農に対するロマンをビジュアルで表現することも検討している。屋内の活用として様々な企業とのコラボでレンタルスペースとして展開することや、乳製品を利用して子どもの集まる仕掛けも考えられる。本ワークショップで出された意見を参考にしながら設計企画を考えていきたい。

5. まとめ

ワークショップで数多くいただいた貴重な意見を策定方針に活かしていくことを確認した。

6. アンケート

7. 閉会

以上